



名古屋市中川区の野党共闘サポーターズのメンバー

毎週100軒かかさず訪問

戦争法廃止のための野党共闘を地域から起こそうと活動するグループ「野党共闘サポーターズ」が名古屋市中川区で産声をあげました。雨の日も風の日も毎週欠かさず2000万署名の訪問・対話を繰り返しています。

(吉岡 幸一)

名古屋のグループ

広げよう 2000万署名

「人の命を殺(あや)めることだけは絶対やめてほしい」。9日、サポーターズの各戸訪問で62歳の女性が真剣なまなざしで2000万署名に応じました。訪問したのは、保育士の小林久仁子さんとIT系企業で働く30代前半の男性。2人が「憲法9条を



持つことで日本が世界から尊敬され、相手国が日本のことを攻めてはいけぬ国だと思えるようになるというですね」と話します。署名に応じた女性は「9条だけは何としても守って。中国や北朝鮮を理由に防衛強化すれば相手も武力を加速させ、切りがな」と訴えました。

立場超えて結成

サポーターズ結成は今年1月23日。戦争法廃止のために地域からできることはないかと中川区の有志が立ち上げました。

自民党関係者も

自民党の後援会に携わっているという人も対話に。「自分は党派が違ふから署名はできないと思っていた」という相手に、安保法に反対する人なら誰でもOKという趣旨を語ると署名してくれました。

犬の散歩中やバス待ちの人、休憩中のタクシー運転手など街頭で見かけた人に声をかけると「意外と反応がいい」とも。区内の企業に就活中という学生4人と対話になり、3人が署名に応じてくれたことも。

後藤さんたちにとって地域行動は住民との公約。「仕事の都合で参加しにくい人に合わせて行動日を調整しています。訪問時間まで約束しているので毎週欠かさず行動する緊張感があるんです」

戦争法反対の思い形にして

高知の川村さん

高知市の元小学校教員、川村高子さん(96)は「教え子を再び戦場へ送りたくない。嫌な事は嫌と言ってほしい」と呼びかけています。

80、70代の小学校の教え子ら20人以上から次々と署名が返ってきています。

集めた署名は200人を超えました。自宅の周りにも署名を呼びかけて回っています。所属している党小高坂(こたか

さ)支部でも、9日には目標の850人達成しています。1919年、現在の高知県北部の大豊町の生まれ。5人きょうだいの長女です。空襲で妹を、戦地で弟を亡くしました。戦地からは空の箱だけが帰り、政府から見舞金ももらいました。「総領息子を500円とひきかえ」と悲しむ父の姿を忘れることができません。「思い出すと涙が出ます。国民を無視し、戦争へと進む政府を見るにつ

れ、再び子や孫が戦死し、嘆く親が現れてはいないとの思いが強くなりました」今年3月の同窓会で「今署名を書いてない人は書いてほしい」と教え子が署名を呼びかけてくれるなど、署名を集めてくれる人たちが増えていきます。「ともに学び、遊んだ教え子たちからの署名は大切な贈り物です。この署名は2000万を超して集め、国民の強い思いを見せつけたいです」

「人の命を殺(あや)めることだけは絶対やめてほしい」。9日、サポーターズの各戸訪問で62歳の女性が真剣なまなざしで2000万署名に応じました。訪問したのは、保育士の小林久仁子さんとIT系企業で働く30代前半の男性。2人が「憲法9条を